

統計データから

令和 4 年に発生した農作業死亡事故の概要

本調査は、厚生労働省の「人口動態調査」に係る死亡個票等を用いて、令和 4 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までの 1 年間の農作業死亡事故について農林水産省で取りまとめたものである。

令和 4 年の農作業死亡事故者数は 238 人であり、前年より 4 人減少、8 年前の平成 26 年の 350 人からは減少傾向にある（表 -1）。

その内訳を、事故区分別にみると、農業機械作業に係る事故が 152 人（事故全体の 64%）と事故割合が最も高い。機種別では、乗用型トラクターによる事故が最も多く 62 人で、機械作業に係る事故の 41% を占める。次いで歩行型トラクターが 21 人、農用運搬車（軽トラックを含む）が 16 人で、これらの 3 機種で機械作業に係る事故の 65% を占めている。

その事故発生状況を見ると（表 -2）、乗用型トラクターでは、「機械の転落・転倒」が 41 人で当該機種による事故の 66% と最も多い。歩行型トラクターでは、「挟まれ」が 9 人で同

43%、次いで「回転部等への巻き込まれ」が 7 人で同 33% と多い。農用運搬車では、「機械の転落・転倒」と「挟まれ」がそれぞれ 4 人、次いで「ひかれ」が 3 人となっている。

農業用施設に係る事故死亡者数は 5 人で、事故発生状況は作業舎の屋根等、高所からの「墜落・転落」「落下物によるもの」「CO ガス等による中毒」となっている。

それ以外の事故死亡者数は 81 人と全体の 34% を占め、なかでも「熱中症」が 29 人と最も多く、次いで「稲ワラ焼却中等の火傷」が 15 人となっている。

年齢層別にみると、65 歳以上の高齢者の事故は 205 人で、事故全体に占める割合は 86% である。男女別では男性が 88%、女性が 12% となっている。また、月別では、8 月が最も多いが、5、7、10 月を合わせると事故全体の 50% を占めている。（K. O）

表 -1 農作業中の死亡事故発生状況（単位：人、%）

項 目	農業機械作業に係る事故										農業用施設 作業の係わ る事故	機械・施設 以外の作業 事故
	合 計	小 計	乗 用 トラクター	歩行用 トラクター	農用運搬車	自脱型 コンバイン	動力防除機	動力刈払機	農 用 高所作業機	その他		
死亡者数	238	152	62	21	16	11	8	1	1	32	5	81
割合（%）	100	63.9	26.1	8.8	6.7	4.6	3.4	0.4	0.4	13.4	2.1	34.0

表 -2 農業機械作業に係る事故の機種別・原因別死亡者数（単位：人、%）

事故発生原因	合 計	割 合 （%）	乗 用 トラクター	歩行用 トラクター	農用運搬車	自脱型 コンバイン	動力防除機	動力刈払機	農 用 高所作業機	その他
機械の転落・転倒	72	47.4	41	2	4	5	3	0	0	17
ほ場等	52	34.2	27	2	4	4	3	0	0	12
道路から	20	13.2	14	0	0	1	0	0	0	5
道路上での自動車との衝突	2	1.3	1	0	1	0	0	0	0	0
挟まれ	31	20.4	4	9	4	2	4	0	0	8
ひかれ	14	9.2	5	1	3	2	0	0	0	3
回転部等への巻き込まれ	17	11.2	6	7	0	1	0	0	0	3
機械からの転落	9	5.9	4	0	2	1	1	0	1	0
その他	7	4.6	1	2	2	0	0	1	0	1